

THE KENSETSU TSUSHIN SHIMBUN

建設通信新聞

Architectures, Constructions & Engineerings News (Daily)

2014年(平成26年)12月17日(水曜日) (第三種郵便物認可)

ライフラインと向き合う女性技術者



シーエスエンジニアズ
北関東支店

設計部主査

細川 聡美さん

現実に見合った評価に力点

シーエスエンジニアズ(本社・さいたま市南区、加藤雄雄代表取締役)に入社して5年目。もともと地質や土質などの地盤分野が専門で、入社前は同社の下請けの調査に別会社で携わったこともあり「調査結果をどのように生かしていくか、社会と直接かかわれるような環境で試してみたい」と再就職した。

コンサルタントとして「調査を踏まえ、現実に見合った評価を行い、対策を導くことが大切」と力を込める。その考えは管路更生についても同じで、「まずは調査から。その結果から得られるデータの積み重ねがあって、本

来は基準などが導かれるべき」と工法によって違いがある既設管案件の考え方など不安定な要素を指摘する一方、「本質をとらえた統一的な見解を出していく」という流れも感じる。だからこそ、その過程の調査・研究にもっと力を注ぐ必要がある」と考えている。

その一環として、大きな関心を寄せたテーマの一つが、流量の評価。「たむらびや段差などがあった場合、あらかじめ、損失がどれくらいになるのか評価することが大事。管更生の事業を成立させる根拠としても重要」と熱く語る。